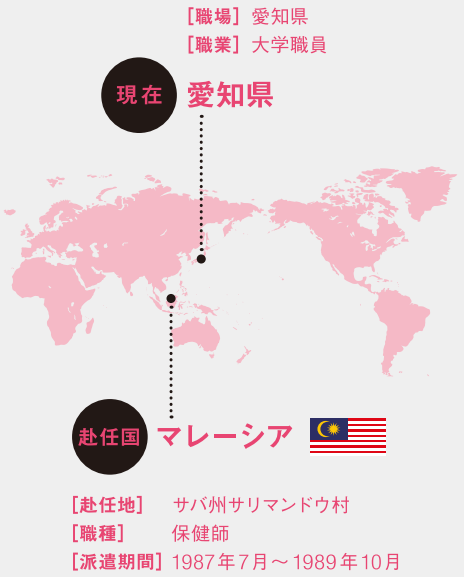

地域住民と共に創造する楽しさ 保健師の醍醐味を次世代へ伝えたい

坂本 真理子さん　愛知医科大学 副学長 看護学部長・研究科長
Mariko Sakamoto

協力隊初の村落開発プロジェクトに参加し、自分が誰かの役に立つことを村人から教えられた。帰国後も紆余曲折しながら、大学で教え、学生と地域住民を繋げる仕事についた。住民と共に考え、新しいものを生み出す保健師の仕事の面白さを、学生たちにも体験させたい。

村人と共に歩む 保健師の仕事の面白さ

マレーシアのボルネオ島にあるサバ州サリマンドウ村。1987年に坂本さんが青年海外協力隊として赴任した時、人口500人足らずの村には電気も水道もなかった。職種の異なる隊員が4、5人でチームを組む協力隊初の村落開発プロジェクトに、坂本さんは保健師として参加した。

「村人の食事はバラエティがなかったので、最初に料理教室を開きました。住民の手が空く農閑期には健康診断を実施。そのうち、新しいことを吸収して周りが真似したくなるような人の存在に気づき、保健ボランティアとして働いてもらう仕組みを作り、一緒に活動しました」

村人と仲良くなり順調だった活動は、2年目に急変。水道工事を担当していた土木施工隊員の後任者が得られず、水道は保健局の管轄だから、と坂本さんが事業を引き受けることに。

「住んでいた住居には工具が溢れて、まるで現場監督ですよ。工事の順番を巡って住民ともギクシャクするし、本当に大変でした。でも、村の人にとっては大事なことだから頑張れたんです」

ままならない日々 学ぶことが突破口に

看護学生の頃からネパールに憧れていた坂本さん、協力隊に行きたいという気持ちはあったが、保健所に入って保健師の仕事に打ち込んだ。そんな時、職場の協力隊OBの獣医が「行ってみればいいじゃない」と後押ししてくれた。上司も協力的で、様々な人の応援を得て、休職参加できることに。

協力隊での2年間、やり抜いたという達成感があった。この経験を活かそうとエネルギーにあふれて帰国した坂本さ

愛知医科大学には病院が併設されており、ドクターヘリも頻繁に発着。臨場感ある環境の中、現場で学ぶことの大切さを学生に伝えていく。

協力隊時代に仲良くなった子どもたちの写真の前で、当時と今の姿を生き生きと語る。

研究室のキャビネットには本がぎっしり。学生たちに特に読んでほしい本を示して。

んだが、復職したら保健所の仕事には空きがなかった。事務仕事や精神科のデイケア施設での勤務をこなしながら看護教育の道を模索し、大学の通信教育や大学院で社会福祉学を学ぶことに。その結果、1996年に大学の教員として一歩を踏み出した。

保健師の現場をこよなく愛する坂本さんだが、その情熱はなかなか学生に伝わらなかった。悩み抜いた末に職を辞し、タイへ留学してプライマリーヘルスケアを学んだ。いろいろな国の人と共に学んだ10ヵ月は楽しく、充実していた。

タイから帰国した2000年6月、愛知医科大学に新設されたばかりの看護学部で、地域看護学を教える職についた。

「ここに来てから、いい意味で肩の力が抜けた感じです。私がアジアで学んだのは、看護職は住民に育てられるということ。その中で自分たちが役に立つという感覚を身につける。学生が地域の人たちと接点を持ち、様々なことを教えてもらう環境を作りたいと思っています」

大学で教える傍ら、外国人ママへの支援グループでも活動している。外国人比率の高い知立市で、小中学生の学習支援をしていた人たちが、就学時点で外国人と日本人の子に学力の開きがあるため、もっと小さい頃からサポートしようと立ち上げたグループだ。活動は幅広く、坂本さんは必要な母子保健の情報がお母さんに届いているか目を配る。中心になっている日系社会青年ボランティアのOGとは「協力隊活動みたいだね」と言い合っている。

また、山間地域にあり高齢化率の高い設楽町にも通っている。「ここでは住民が自ら介護予防の活動に取り組んでいるんですよ。その工夫や体験を、医療従事者の枠を超えて柔軟に受け止めたい。看護職は人とかかわる仕事。地域の人の声を聴きながら、社会の変化を肌で感じる必要があります」

保健師を目指す若い人たちに伝えたい

坂本さんは「保健師の歴史」を研究テーマのひとつにしている。先輩保健師の体験をまとめ、若い保健師たちに届けたいという思いがある。

「保健師の活動はとても面白いものなんだよ、と伝えたいんです。地域の人たちと一緒に仕事する中で、思いもよらないアイディアが出てくる。新しい課題に住民と取り組み、何かを創造する。その楽しさを皆に広めることが、私の役割ではないかと」

協力隊で過ごしたサリマンドウ村の人たちとは、今も親戚のようなつき合いが続いている。あの頃の子どもたちが成長して、今は村のリーダー役を担っている。地域の人たちと共に楽しさも大変さも味わった、ここが坂本さんの原点だ。

看護学部の要職についた坂本さんには、大好きなフィールドに出る時間があまりない。でも、地域住民と協働する保健師の仕事を外に伝え、その活動を広げたり繋げたりすることがしやすいポジションにいると心得ながら、後輩たちに温かい眼差しを送っている。

坂本 真理子さん プロフィール

愛知県出身。看護師、保健師の資格を取得し、名古屋市の保健所に勤務。1987～89年、休職して青年海外協力隊に参加、マレーシアに。帰国して復職した後、大学院に進学。愛知県立看護大学の教員を経て、現在は愛知医科大学副学長、看護学部長。

坂本さんへのエール！

愛知医科大学
看護学部 在宅看護学 准教授
佐々木 裕子さん

人を大事にし、誰からも頼りにされる人

初めて会った時、キラキラしていて、協力隊での活動を楽しそうに話していたのが印象に残っています。私が大学に誘われた時に相談したら「今まで取り組んできたことを全力で学生に伝えてほしい。学生を愛してほしい」と。誰とも分け隔てなく接し、相手に伝わることを大事にし、他人にエネルギーを与えてくれる人。人の力を引き出し、その力と力を繋ぐ、そうした持ち味を活かして、創造的な活動を続けていって欲しいです。